



VRLA(制御弁式) オートバイ用バッテリー 取扱説明書

このたびは、「GSユアサ バッテリー」をご購入いただき誠にありがとうございます。
ございます。

バッテリーを正しくお取り扱いいただくため、バッテリーをご使用になる前
や、点検の前に、本取扱説明書やバッテリー本体の注意表示をよくお読み
ください。誤った取り扱いをすると、引火爆発、焼損、破損、液漏れ、
車両損傷、失明、やけど、けがなどの原因となります。本取扱説明書
はお読みいただいた後もお手元に大切に保管してください。
尚、ご不明な点はご購入店または弊社にご相談ください。



説明書熟読

目次

●ご注意(必ずお守りください).....1-4	●使用中の点検..... 9
●使用前のバッテリーの取り扱いと点検... 5	・液面点検・補水は不要..... 9
・ご使用前に..... 5	・端子..... 9
・開梱前後の取り扱いと点検..... 5	・バッテリーの充電(使用中のメンテナンス)..... 10
・バッテリーの清掃.....5-6	・バッテリーの寿命..... 11
・電解液の注液(即用式バッテリー)..... 6	●その他の取り扱い..... 11
・使用前のバッテリーの充電..... 7	・使用しない場合は充電後に保管... 11-12
・バッテリーの持ち運び..... 7	・使用済みバッテリーの取り扱い..... 12
・バッテリーの取り外し、取り付け.....7-9	●要項表..... 13
・始動..... 9	

「リサイクルの推進にご協力をお願いします」

ご不要になった使用済みバッテリーは放置したり、
一般ゴミと一緒に捨てたりしないでください。新しい
バッテリーをご購入の販売店に引き取りをご依頼
ください。



Pb

ご注意(必ずお守りください)

- 表示内容を見逃して誤った使い方をした場合に生じる危害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

危険	人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容です。
警告	人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。軽傷または物的損害が発生する頻度が高いことが想定される内容です。
注意	人が軽傷を負ったり物的損害の発生が想定される内容です。

- お守りいただく内容の種類を次の表示で区分し、説明しています。
(下記は絵表示の一例です。)

	禁止の行為を告げる絵表示です。
	「注意喚起」を促す内容があることを告げる絵表示です。
	行為を強制したり、指示したりする内容を告げる絵表示です。

危険

<p>■説明書熟読</p> <p>誤った取り扱いをすると、車両損傷、失明ややけどの原因となります。</p> <p>説明書熟読</p>	<p>■エンジン始動・点灯などの車両負荷以外に使用しない(補償対象外)</p> <p>液漏れや焼損、引火爆発、有毒ガスである硫化水素の発生、中毒の原因となります。</p>	<p>■破裂、爆発注意</p> <p>正しいご使用方法、取り扱いメンテナンスなど取扱説明書をよくお読みになってご使用ください。</p> <p>破裂、爆発注意</p>
--	---	--

<p>■火気を近づけない バッテリーから水素ガスが発生するので引火爆発の原因となります。</p>  <p>火気禁止</p>	<p>■電解液(希硫酸) 取り扱いに注意 失明ややけど、機器腐食などの原因となります。専門家または取り扱いに習熟した者の指導のもとに行ってください。</p>  <p>硫酸注意</p>	<p>■目に電解液が入った時の処理 直ちに多量の水で洗眼し、速やかに眼科医の治療を受けてください。</p> 
<p>■電解液が口に入るか、飲み込んだ時の処置 直ちに多量の水でうがいを繰り返し、多量の飲料水を飲み、速やかに医師の治療を受けてください。</p> 	<p>■取り扱い時は保護メガネ、ゴム手袋を着用 電解液により失明ややけどの原因となります。</p>  <p>メガネ着用</p>	<p>■こども禁止 こどもや取り扱い方法、危険を十分理解しないものに触れさせないでください。</p>  <p>こども禁止</p>
<p>■バッテリー、バッテリー端子の分解、改造禁止 液漏れや火災、引火爆発の原因、失明、やけどの原因となります。</p> 	<p>■密閉された場所で使用しない バッテリーから発生する水素ガスによる引火爆発、有毒ガスである硫化水素発生時、中毒の原因となります。</p> 	<p>■ケーブルターミナルや取付金具は確実に固定する 取り付けが緩い状態や腐食した状態で使用するとスパークにより火災、引火爆発の原因となります。</p> 
<p>■充電器の使用は正しく行う 取り扱いを誤ると引火爆発や火災の原因となります。充電器の取扱説明書に従い正しく充電してください。</p> 	<p>■充電器の接続ケーブルは正しく接続し、充電中は取り外さない スパークにより引火爆発や火災の原因となります。</p> 	<p>■金属工具などで⊕端子と⊖端子を接触(ショート)させない スパークにより引火爆発や火災の原因となります。</p> 
<p>■ケーブルターミナルやバッテリー端子が腐食したままで使用しない スパークにより引火爆発や火災の原因となります。</p> 	<p>■さかさま・落下や衝撃禁止 電解液が漏れ、失明、やけど、衣服や器物損傷の原因となります。</p> 	<p>■静電気に注意 乾いた布などで清掃したり帯電した身体で取り扱おうと静電気のスパークによる引火爆発の原因となります。</p>  <p>静電気注意</p>

 警告		
<p>■バッテリーの交換は正しい順序で行う 順序を誤ると引火爆発の原因となります(詳細はP7を参照ください)。</p> 	<p>■交換・点検は車両のキーを抜き、ライト等のスイッチをOFF(切)にする 引火爆発の原因となります。</p> 	<p>■端子への取り付けは⊕と⊖を逆にしない 電子部品の破損、焼損や火災の原因となります(詳細はP8を参照ください)。</p> 
<p>■排気孔はふさがらない バッテリーから発生するガスによって内圧が上昇して、液漏れ、バッテリー破裂の原因となります。</p> 	<p>■充電時の注意 要項表(P13)の普通充電電流(A)以下で充電してください。充電直後の取り付け時はスパーク、火気に注意してください。引火爆発の原因となります。詳細は充電器の説明書に従ってください。</p> 	<p>■異臭、液漏れ、変形した状態で使用しない 破損や液漏れによる車両損傷の原因となります。また、有毒ガスである硫化水素の発生、中毒の原因となります。</p> 
<p>■皮膚・衣服に電解液が付着した時の処置 直ちに多量の水で洗い流し、石鹸で十分に洗ってください。やけど、衣服の損傷の原因となります。</p> 	<p>■電気機器の直接接続禁止 配線が焼損し火災の原因となります。</p> 	<p>■バッテリーを車両に取り付けたまま、充電しない 引火爆発や車両機器の損傷の原因となります。</p> 
 注意		
<p>■バッテリーは重量物 取り扱い注意 横倒し、落下などによるけがや液漏れの原因となります。</p> 	<p>■使用温度範囲-10℃~60℃で使用する 使用温度範囲以外では凍結や過熱により破損や変形の原因となります。</p> 	<p>■バッテリーを水や海水がかかる環境で使用しない 損傷や火災の原因となるおそれがあります。</p> 

⚠ 注意

■使用済みバッテリーの取り扱い注意

電気エネルギーが残っているので、子どもが触れる場所に保管しないでください。そのまま廃棄せず、ご購入店に引き取りをご依頼ください。



■密封栓を取り外さない
バッテリーの性能低下や寿命を著しく低下させる原因となります。



■床や地面に電解液がこぼれた時の処置

重炭酸ソーダ(重曹)などを泡が出なくなるまで散布した後、多量の水で流してください。



■車両に電解液が付着した時の対処

直ちにウエスなどでふき取った後に、水で洗い流してください。



■電解液は指定のものを使用してください

電解液は指定以外のものを使用しないでください。



- 本バッテリーをエンジン始動・点灯などの車両負荷以外の用途に使用しないでください。取り扱いを誤ると液漏れ、焼損、引火爆発、有毒ガスである硫化水素の発生、中毒の原因となります。
- バッテリーからは水素ガスが発生(特に充電終期)します。引火爆発の原因となりますので、バッテリーの近くに火気(マッチ、ライター、タバコなどの火、溶接機やグラインダなどの火花、端子部のスパークなど)を近づけたり発生させたりしないでください。
- バッテリーの点検や清掃の前には、車体の金属部分に触れるなど身体の静電気を逃がすようにしてください。帯電した身体でバッテリーを取り扱っているとスパークにより引火爆発の原因となります。
- バッテリーの運搬や保管時は、転倒させたり、衝撃をあたえたりしないでください。電解液が漏れ失明ややけどの原因となります。
- バッテリーを水や海水のかかるような環境で使用しないでください。バッテリーの破損や火災の原因となります。



使用前のバッテリーの取り扱いと点検

- この項の内容は取り扱い手順に従って説明しておりますので、必ずお読みくださるようお願いいたします。ご購入いただきました商品は早めにご使用いただき、長期在庫などにならないようご注意ください。

■ご使用前に

- バッテリーには、使用時に電解液を注入する必要がある“即用式バッテリー”と、注液充電済みである“液入り充電済みバッテリー”の2種類があります。判別には、梱包箱の記載内容をご確認ください。
- バッテリーは、車両の年式、仕様により適合しない車種がありますので、現車及び当社ホームページの適合検索などをご確認の上、お選びください。
- ご購入後はできるだけ早く車両に搭載し、使用を開始してください。液入り充電済みバッテリーは、保管中にバッテリーを使用しなくても自然に放電し、使用できなくなることがあります。やむを得ず保管する場合は、取扱説明書P11「使用しない場合は充電後に保管」の項を参照の上、充電を行ってください。

■開梱前後の取り扱いと点検

バッテリーは電槽にヒビ、割れ、欠け、変形、異臭がないことを確認し、投げたり、落下させたり、倒したりしないよう丁寧にお取り扱いください。

* 即用式バッテリーは、電解液を注入する時までバッテリー上面の液口封口シールを絶対にはがさないでください。即用性能が低下します。

- 開梱後、バッテリーの外観を点検し、電槽にヒビ、割れ、欠け、変形、異臭がないことを確認してください。異常が認められた状態で使用されると機器を傷めるほか、漏電し、火災の原因となります。
 - バッテリーは重量物です。腰を痛めたり、落下などによるけがや、器物の損傷にご注意ください。
- 注) バッテリーご使用前(注液前)およびご使用中にバッテリー内部が負圧になることにより短側面に少しヘコミが見られる場合がありますが、ご使用上に問題はありません。



■バッテリーの清掃

バッテリーを使用する前に必ず排気孔のゴミやほこりなどを取り除いてください(バッテリー上面、またはバッテリー側面の上部にある穴、あるいはすきまが排気孔となっています)。

- ゴミやほこりなどで排気孔が詰まった状態のまま注液、充電、車両への取り付けを行うと電槽が破裂し、失明、やけどや車両などを腐食する原因となります。



電解液の注液(即用式バッテリー)

バッテリー上面の液口封口シールを外した後、電解液に添付されている取扱説明書の「電解液の注液方法」に従って注液してください。注液後は密封栓を確実に取り付けてください。

* 液入り充電済みバッテリーには注液不要です。



● お客様へ

「毒物及び劇物取締法」に基づき保健衛生上、また安全上から原則として液入り状態のバッテリーにして販売しています。液別状態でのご購入については販売店にてご相談ください。

● 販売店様へ

電解液は「毒物及び劇物取締法」に従って取り扱う関係上、液別状態での販売は行政機関への販売業登録の届出と手続きが必要です。販売業登録をされていない場合は電解液を注入し、液入り状態にしてご販売ください(ネット販売なども含む)。

- バッテリーの取り扱い方法や危険性を十分理解していないもの(こどもなど)に注液をさせないでください。失明ややけどの原因となります。
- バッテリーを車両に搭載した状態で注液をしないでください。車両損傷の原因となります。
- 指定の電解液(専用電解液)以外使用しないでください。
- 電解液の空容器は残液がないことを確認し、多量の水で洗浄後、処理してください。
- 注液直後、バッテリーが発熱する場合がありますが、そのままの状態でも20分以上～1時間以内静置してください。



使用前のバッテリーの充電

● 即用式バッテリー

即用式バッテリーは電解液を注入すればそのまま使用できますが、より快適なエンジン始動のために充電を推奨します。

また、次のような場合はVRLA(制御弁式)バッテリー充電器あるいは要項表もしくはバッテリーに示す充電電流と充電時間で充電を行ってください。

- ・ 液口封口シールが外れているもの。
- ・ 注液後、30分以上経過後、端子電圧が12.4V未満の場合。
- ・ 冬期低温時およびエンジン始動が不十分な場合。

● 液入り充電済みバッテリー

端子電圧が12.4V未満の場合は、VRLA(制御弁式)バッテリー充電器あるいは要項表もしくはバッテリーに示す充電電流と充電時間で充電を行ってください。

- 急速充電を緊急でやむを得ず行う場合は、バッテリーの表記に従ってください。

バッテリーの持ち運び

バッテリーの持ち運びは、バッテリーの底を持ち、水平な状態で行ってください。

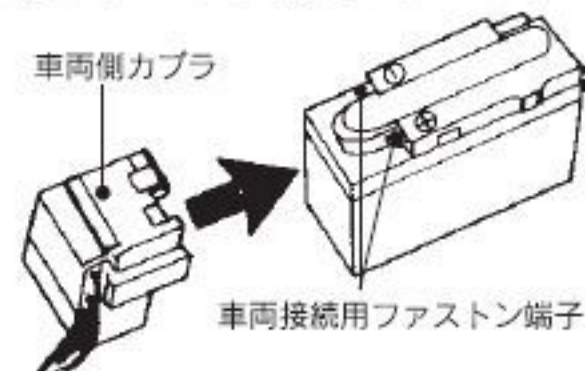


バッテリーの取り外し、取り付け

バッテリーの交換は、必ず車両等の取扱説明書に従って自己責任のもとで行ってください。バッテリーの取り外し、取り付けは必ずエンジンを止めキーを抜いてください。取り付けは振動などで動かないよう車両にしっかりと取り付けてください。

● ファストン端子の場合

ファストン端子のバッテリーの場合は車両側カブラごと取り外し・取り付けを行い、しっかりと車両側カブラに取り付けてください。



●前記タイプ以外の端子の場合

古いバッテリーを取り外す時は必ずアース側(⊖端子)から始め、新しいバッテリーの取り付けは⊕端子から始めてください。

また、絶対に逆接続しないよう、注意して取り付けてください(取り付け後、ケーブルターミナルの金属部にグリス塗布などの防錆処理を施すことを推奨します)。



取り外しは、
⊖から取り外してね。
取り付けは⊕から

●バッテリーの取り扱い方法や危険性を十分理解していないもの(こどもなど)に取り外し、取り付けをさせないでください。

●バッテリーを取り付ける際、金属工具などによって⊕と⊖を接触させないでください。ショート火花により引火爆発の原因となります。



⊕⊖を
接触させ
ないで

●バッテリーの取り外し、取り付けは必ずエンジンを止めキーを抜き、ライトなどのスイッチがON(入)の状態では行わないでください。引火爆発の原因となります。



OFF

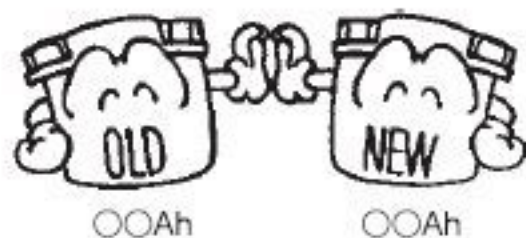
●バッテリーの⊕端子には⊕リード線を、⊖端子には⊖リード線を、間違わないよう注意し、確実に取り付けてください。逆接続は電気回路の故障や配線の焼失、引火爆発の原因となります。



⊕⊖を
間違え
ないで

●バッテリーは、振動などで動かないよう車両にしっかりと取り付けてください。取り付けが不十分であると、転倒や液漏れの原因となります。

●バッテリーは、搭載されているものと同容量(Ah)のものと取り換えてください。



●バッテリーは、現在搭載されています搭載角度および適合バッテリー以外は使用しないでください。また、同じサイズでも容量の違いなどで異なるバッテリーは使用しないでください。取り換えを誤ると、液漏れやバッテリー内部が破損し、爆発の原因となります。

●バッテリーは端子位置の異なるものと取り換えないでください。接続を誤ると、接続ケーブルの損傷や、車両火災の原因となります。

■始動

車両への取り付けが完了したらエンジンを始動してください。尚、始動操作は5秒以内とし、1回で始動しない場合は10秒位休止後、再び始動操作を行ってください。ただし、この操作を数回行っても始動しない場合は、バッテリーや始動回路などを調べてください。

使用中の点検

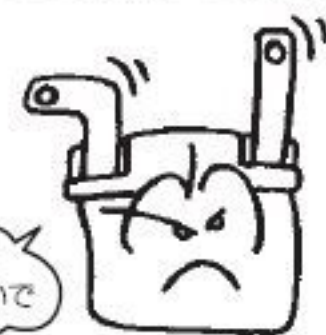
■液面点検・補水は不要

このバッテリーは電解液面点検・補水はできない構造になっています。密封栓を外しての補水は、短寿命となるほか液漏れの原因となりますので絶対に行わないでください。

■端子

バッテリーは常に清潔にしてください。電解液(希硫酸)が付着していると車体、端子およびケーブルターミナルなどが腐食します。腐食を発見したら腐食を取り除き、直ちに水で洗い乾燥させてください。端子の腐食が著しい場合は新品と交換してください。

●バッテリーの端子を改造しないでください。引火爆発や液漏れの原因となります。



端子を
改造しないで

●バッテリーの端子に直接電気機器を接続しないでください。配線が焼損し、車両火災の原因となります。

●バッテリー取付金具、ケーブルターミナルに緩みがないか確認してください。緩んでいる場合は、ナットを締め、確実に固定してください。

■ バッテリーの充電(使用中のメンテナンス)

エンジン始動しない場合や、端子電圧が12.4V未満の場合は充電を行ってください。電圧計などを用いて端子電圧を確認し、充電時間の目安としてください。

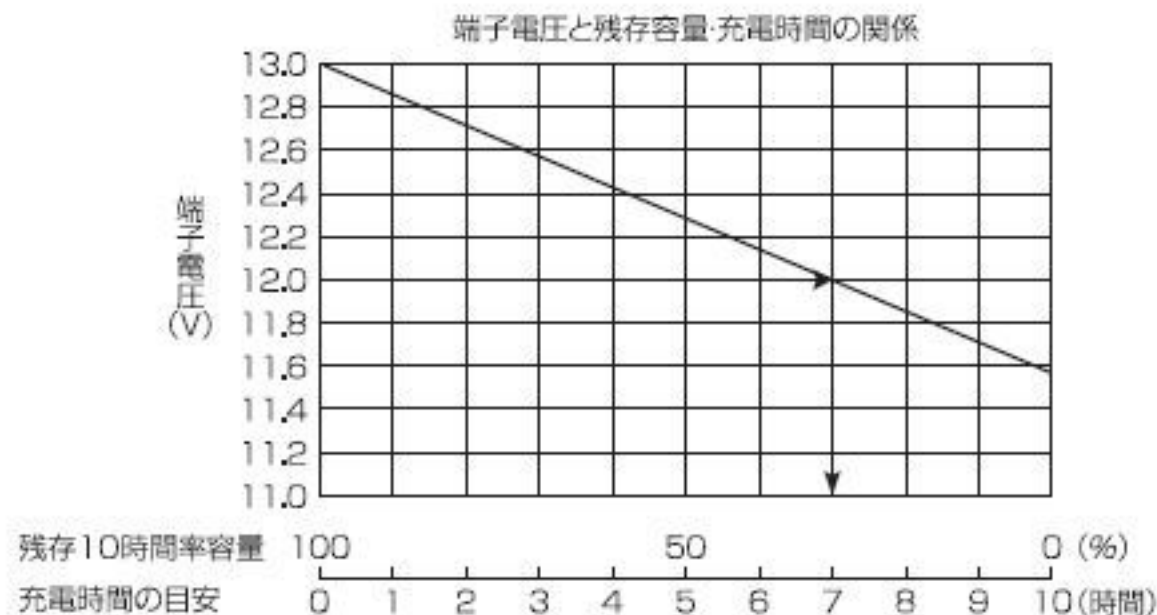


図1 <端子電圧測定による残存容量算定の方法>

(例)端子電圧が12.0Vの場合、残存容量は約30%、また充電時間は約7時間となります。

- 充電はVRLA(制御弁式)バッテリー対応充電器を使用するか、要項表もしくはバッテリーに示す指定の充電条件(充電電流、充電時間)を守ってください。
充電方法を誤ると、液漏れや引火爆発の原因となります。
- 充電器は、電源がOFF(切)になっていることを確かめてからご使用ください。
ON(入)の状態ではバッテリーに接続するとスパークが発生し、引火爆発の原因となります。
- 充電は風通しの良いところで行い、火気を近づけないでください。
引火爆発、有毒ガスである硫化水素の発生時、中毒の原因となります。
- 充電器の⊕側とバッテリーの⊕端子、充電器の⊖側とバッテリーの⊖端子を接続してください。
接続を誤ると、電気回路の故障や配線が焼損する原因となります。
- 車両に取り付けた状態での充電器による充電は行わないでください。
バッテリーの引火爆発や車両機器の損傷の原因となります。
- 急速充電を緊急でやむを得ず行う場合は、バッテリーの表記に従ってください。



■ バッテリーの寿命

バッテリーは使用中に、その容量が徐々に低下し、寿命となります。充電しても性能が回復しないものは寿命です。

- 寿命は、次の要因によって短縮されます。
 - ・ 高温(エンジンからの熱などの環境温度)
 - ・ 使用頻度(使用が少なすぎても、多すぎても影響を受ける)
 - ・ 充電不足(充電・放電のバランスが放電側の場合や発電機の故障などによる供給不足)
 - ・ 過酷な使用(寒冷地での多用、充電不足での使用など)
 - ・ 保守の不備(端子部分の緩みによる接触不良、ランプ類の消し忘れなどによるバッテリーあがり)
 - ・ 過剰な充電(レギュレータの故障、完了時点を過ぎても充電を終了しないなどで充電し過ぎた場合)
- 寿命末期には次のような兆候が起こります。
 - ・ スターターモータの回転音がいつもより低くて弱い
 - ・ 方向指示器の動作が遅い、暗いこれらの兆候が現れた時は、取扱説明書P10「バッテリーの充電(使用中のメンテナンス)」の項に従いバッテリーを充電してください。充電後も兆候がなくならない場合は、バッテリーの交換を推奨します。新たにGSユアサのオートバイ用バッテリーをお買い求めください。



その他の取り扱い

■ 使用しない場合は充電後に保管

ご購入後(即用式バッテリーの場合は注液後)すぐに使用しない、または車両を長期間使用しない場合は、VRLA(制御弁式)バッテリー充電器あるいは要項表もしくはバッテリーに示す充電電流と充電時間で充電を行ってください(バッテリーを車両に搭載した状態で充電を行わないでください)。

- 充電について

11 保管中は自己放電を補うために充電を行ってください。

- ・夏季(5月~9月)3ヶ月に1回
- ・冬季(10月~4月)6ヶ月に1回
- ・端子電圧が12.4V未満の場合

※車両搭載された状態で保管した場合、車両のメモリー負荷などの暗電流により、著しく放電する場合があります。

●保管について

- ・充電後は雨露、粉塵、直射日光、高温・多湿を受けない風通しのよい場所に保管し、横倒しの状態や落下しやすい場所では保管しないでください。
- ・子どもが触れることのない場所に保管してください。
- ・火気を近づけたり、ショートさせないでください。

■使用済みバッテリーの取り扱い

使用済みバッテリーはリサイクルされます。

ご不要になった使用済みバッテリーは放置したり、一般のゴミと一緒に捨てたりしないでください。新しいバッテリーをご購入の販売店に引き取りをご依頼ください。

リサイクル推進にご協力を!!



Pb

- 使用済みバッテリーには金属工具などにより⊕⊖を接触させたり、火気を近づけたりしないでください。引火爆発や火災の原因となります。



<ご相談窓口>

株式会社 GSユアサ

(お問い合わせ窓口) 0120-431-211 (フリーダイヤル)

受付：月～金(年末年始、休日など除く) 9:00～12:00、13:00～17:00

※バッテリーの故障や寿命の判断など、ご相談内容によってはご購入店(ネット販売等含む)とご相談いただく場合があります。

要項表

バッテリー型式	10時間率容量(Ah)	充電電流(A)	充電時間(時間)	専用電解液
YTR4A-BS	2.3	0.3	8~10	ECR-0.14N
YT4B-BS				ECW-0.12N
※ YT4L-BS	3.0	0.4	5~10	ECR-0.18N
※ YTX4L-BS				ECR-0.16N
YTX5L-BS	4.0	0.5		ECR-0.24N
YTX7L-BS	6.0	0.7		ECR-0.33N
YTX7A-BS			ECRA-0.33N	
YT7B-BS	8.0	0.9		ECR-0.40N
YTX9-BS			ECR-0.60N	
YTX12-BS	10.0	1.2		ECR-0.47N
YT12A-BS			ECR-0.52N	
YT12B-BS	12.0	1.4		ECR-0.69N
YTX14-BS			ECS-0.85N	
YTX20L-BS	18.0	1.8		
GT4B-5	2.5	0.25	5~10	液入り充電済
GT7B-4	6.5	0.65		
GT9B-4	8.0	0.8		
GT12B-4	10.0	1.0		
GT14B-4	12.0	1.2		
GTZ4V	3.0	0.3		
GTZ5S	3.5	0.4		
YTZ5S				
YTZ6V	5.0	0.5		
YTZ7S/(F)	6.0	0.6		
YTZ7V				
GTZ8V	7.0	0.7		
YTZ10S	8.6	0.9		
YTZ12S	11.0	1.1		
YTZ14S	11.2			
GYZ20HL-C	20.0	2.0		

バッテリーの電圧はすべて12V

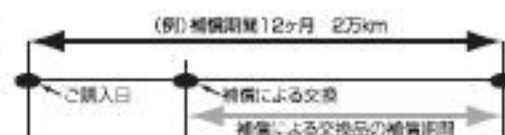
※ YTX4L-BSを適合バッテリーとする車両にYT4L-BSを搭載しないでください。早期エンジン始動不能や、バッテリー短寿命の原因となります。

補償条件

本製品は厳密な品質管理と検査の上、お届けしておりますが、万一ご購入後、補償期間内に正常なご使用状態で不具合が生じた場合は、ご購入店(ネット販売等含む)にご相談ください。ご購入店で点検・調査の上、下記条件により補償させていただきます。ただし、ご購入店による点検・調査でも補償適用の可否が不明な場合、弊社または弊社代理店等にて点検・調査をさせていただくことがあります。

1. 補償内容

下記の「補償の対象」「補償期間」に従って、無償で「新品」と交換させていただきます。また、バッテリー交換以外の責はご容赦願います。尚、補償適用により新品交換した場合、補償期間は当初ご購入いただいた時点からの補償期間が適用されます。



2. 補償の対象(国内使用品に限る)

製造上あるいは材料上の不具合により使用不能となったもの(充電で回復する単なる放電状態は適用外ですのでご了承ください)。

3. 補償期間

補償期間はご購入日より起算した使用期間、または累計走行距離のいずれか早く到達した時とします(ご購入いただいた製品の補償期間については裏面をご確認ください)。

4. 適用除外

補償期間内であっても以下の場合、補償は適用されません。

- ① 補償書がない場合、または、必要事項が記入されていない場合
- ② 単なるバッテリーあがりなど、充電により回復するもの(但し充電により回復した場合の充電代は有料となる場合があります)
- ③ 業務用車両、教習車両に使用された場合
- ④ 天災、地災、火災、海難、動乱などによるバッテリーの破損ならびに故障
- ⑤ 使用上の酷使、手入れ不十分、過失または事故によって生じた故障と認められるもの
例えば、
 - (ア) 電槽、あるいは蓋の変形、破損したもの
 - (イ) 電装品などの故障、欠陥により生じた事故
 - (ウ) 逆接続充電されたもの
 - (エ) 交通事故による破損・故障・機能低下の場合
 - (オ) バッテリーを修理・改造した場合
 - (カ) 過負荷となるアクセサリーを使用した場合
 - (キ) 過補水、雨水、洗車時の水の浸入により液あふれが生じた場合
 - (ク) レースなどのスポーツ用途で使用された場合
 - (ケ) ご購入後保管期間中、放電したまま放置した場合
 - (コ) 車両搭載のままご使用ならずコンピューターメモリー負荷(暗電流)により放電した場合
 - (サ) ご購入後、保管中の自己放電によるもの
- ⑥ 車両自体の原因による場合
(例えば、レギュレーターの設定電圧が基準値を超えて過充電となった場合)
- ⑦ エンジン始動および点灯以外の用途に使用したり、適合外の車両に使用した場合
- ⑧ 補償書記載以外の車両に載せ替えた場合
- ⑨ バッテリーの搭載位置、車両懸架緩衝装置、充電装置などに改造が加えられた車両で使用された場合
- ⑩ 不具合の車両がチェックできない場合
- ⑪ 所有者が変更となった場合

注意:ご購入店(ネット販売等含む)以外での補償はできませんのでご注意ください。